

## 平成 30 年度 第 3 回札幌市入札・契約等審議委員会の審議概要

### 1 開催日時

平成 31 年 3 月 26 日（火） 10：00～12：00

### 2 開催場所

札幌市役所本庁舎 6 階 1 号会議室

### 3 出席者

#### (1) 委員

高野委員長、阿部委員、遠藤委員、武者委員

#### (2) 札幌市職員

財政局長、財政局管財部長、財政局工事管理室長、財政局契約管理課長、財政局工事契約担当課長、財政局技術管理課長、財政局建築設備検査担当課長、交通局総務課長、水道局総務課長、病院局経営企画課長 他 8 名

### 4 次第

#### (1) 開会

#### (2) 審議事項

抽出工事等の決定・審議（成績重視型入札の見直しについて）

#### (3) その他

#### (4) 閉会

### 5 審議概要

#### (1) 審議事項

ア 抽出工事について

【委員】 落札している企業で 2 年型が「×」で 5 年型が「○」というのは、どういうことか。

【札幌市】 2 年型が「×」で 5 年型が「○」の場合は、2 つの理由がある。直近 2 年間に落札の実績がないこと。落札しているが、直近 2 年間の成績が悪く、2 年型では基準点を下回ったが、5 年間では 3 年より前は工事成績が良く、基準点を上回ったことが考えられる。

【委員長】 成績重視型の参加者数は、価格のみの一般競争入札と比べると、かなり少ないということか。

【札幌市】 基準点を満たす業者に限られるので、少ない。

【委員】 参加者数が少ないと、事務負担は少なくなるのか。

【札幌市】 基本的に電子入札なので、事務負担は変わらない。

## イ 成績重視型入札の見直しについて

※札幌市から、欠席した委員の意見を説明

- 算定方法については、「成績点がない年度も除数に含める（5年間の成績点の合計を5で割る）」が望ましい。5年間毎年成績を修めている23.4%の業者は、むしろ、5年間継続的に成果を残している一方、76.6%の業者はそうではないという事実は、まさに5年型において実績に差が出ているということの意味すると解釈すべき。
- 型式を一本化する理由の「5年型より2年型の方が、基準点が高い傾向にある。」と「5年型より2年型の方が、入札参加への意欲が高い傾向にある。」については、制度趣旨が異なるならば、基準点を異なるものとすることは当然であり、2年型と5年型を統一しなければならない理由にはならない。趣旨が異なることを反映した点数の相違ならば比較することには何ら意味がない。
- 型式を一本化する理由の「5年型、2年型の2つの型式によって、業者が混同し、誤って入札する可能性がある。」については、業者が注意して当然のことであって、配慮する必要はない。

【委員長】 成績がない年度も除数に含めるべきという意見については、下水道のA2、B、舗装のBでは成績を5年間毎年有している業者数が非常に少ない割合になるので、事実上、寡占状況での入札環境になってしまう。最初の意見については、工種と等級ごとに何らかの考慮をしないと、そのままの運用は難しいと感じる。

【委員】 一本化する理由の「5年型より2年型の方が、基準点が高い傾向にある。」と「5年型より2年型の方が、入札参加への意欲が高

い傾向にある。」は、理由としては成り立たない。特に、後者は、次も2年型の参加資格を維持しようとするれば、入札に参加しないと、そもそも2年型へ入札できない状況になる。そのため、制度上、当たり前と感じる。

むしろ、入札環境がどう変化しているのかということと、市の事務負担など行政の効率化を踏まえて制度を変えることが望ましい。

**【委員】** 最初の制度趣旨を考えると、継続してという観点は必要かもしれないが、除数に含めてやると、欲しくない工事まで落札しなければならなくなる。そうすると、入札の参加の有無を評価の対象に加えたときの場合と同じ問題点が発生しかねない。

特に土木はくじ引きの発生率が高いので、運任せと感じる。成績点がない年度も除数に含めると、実力とはあまり関係のないところで排除されてしまうという危惧がある。

**【委員長】** 2つの型式が両立することで、どの程度負担になっていて、統一することにより、どのぐらい事務量、あるいは、業者のわかりやすさが進むのか。

**【札幌市】** 時間数については、5年型、2年型の2つの平均点を算出する事務や、基準点を工種別に作成する時間、内部の事務処理等を合わせて、32時間程度が削減できる。

それに併せて、入札執行で、2つ基準点が存在することによるチェックや、落札決定までの事務処理も含めると、大幅な削減が図れる。

**【委員】** この作業を実際に担当しているのは何名か。

**【札幌市】** 基準点作成については、工事契約係において、5名。

**【委員】** 32時間とは、1人8時間働くとしたら4日分。なかなか大きい時間ではないか。

**【委員】** 5年型において、5年間毎年平均点がなければいけないというルールを仮に設計すると、現実的には寡占になる。一方で、他は30%ぐらい優れた業者を確保できる工種・等級もある。

工事の品質確保と市の行政の効率化を図るという両立を考えなければいけないとすると、工種・等級で取扱いを複雑にすることが望ましくないという姿勢なのか、それとも、そうではないのか。

【委員長】 今の話は、なぜ成績重視型を導入するのかというそもそも論にも通ずる。なぜ成績重視を入れたのか。

【札幌市】 工事の品質確保である。特に難しい工事で技術力を問いたい場合に、成績がより良い業者にやってもらうのが基本的な制度趣旨である。その優良性を計る指針として5年型と2年型という型式が存在する。

【委員長】 総合評価とのすみ分けはどうか。

【札幌市】 成績重視は工事成績だけだが、総合評価は会社の体制や実績をより評価したいというもの。根本的な発想は、成績重視も総合評価も価格点以外のものを重視するという意味では同じ。

総合評価は、証拠書類の提出を求めるので、受注者の事務負担がある。成績重視型では、成績点のみなため、非常に簡素化できる。

【委員長】 業界側の成績重視に対する意見はどうか。

【札幌市】 基準点の算出方法について、特に意見はない。

【委員長】 いろいろな会社にいろいろなチャンスが与えられるという意味では、価格だけで勝負するものもあるし、5年型もあれば、いろいろなパターンがあった方が良いのではないか。

ただ、分析によると、何年型にしようと同じ業者が有資格者なので、2つの制度を設けても、そんなに多様なことにはなっていないという意見もある。

【委員長】 2年型を3年型にすると、参加者数が増えるのか。

【札幌市】 基準点を持つ方が増える。

【委員長】 増える可能性が高いということか。

【札幌市】 3年間のうちでエントリーできる人と2年間でエントリーできる人では、1年延びるので、参加数は増えると思う。

【委員長】 第一の論点として、成績のない年の扱いについて、その年も母数に入れて割り算するべきではないかという提案があったが、こ

れについては、工種・等級ごとに相当な違いがあるので、工種と等級ごとに制度を変えていくことは実効性もないし、非常に複雑な制度になってしまう。まず、これについては、当面は現状のままで、母数には入れないで、成績がある年だけの平均点とする。来年度に3年型を試行するにしても、その方法を決めなくてはいけない。

**【委員】** 3年型にした方のメリットは、5年型を残すよりは、1回しか取っていないもの、さらにもっと前の年度に1回しかないものというケースがより排除されるという意味で、ゆがみは小さく、5年型よりは3年型の方が現行の平均点制度でもゆがみは小さくなるのだと思う。

**【委員長】** いずれにしても、この問題については、業界から意見を聞いておく必要もあると思う。今のままでは少し情報が足りない感じがする。そういう意味で、本日、平成32年度に3年型に一本化するという結論までは出しにくい。

平成31年度、業界にも統一することに関する意見や、データの状況などを見極めた上で、31年度中に32年度以降の結論を出したい。

**【委員】** 2年型を3年型で試行してみるというのは、業者に特に過大な負担を掛けるわけではないのであれば、試行して、また検証するというのも一つの手段だと思う。

**【委員】** 2年型から3年型に移行すると、参加者数が増えるというロジックは、成績平均点を失うということか。

**【札幌市】** 2年型で成績点を有する市内業者の数は、全工種の合計で590者。それを3年型にして同様の視点で見ると、664者が成績点を有することになる。いわゆる過去2年間に1回でも取っている数と、過去3年間に1回でも取っている数なので、一般論で言えば増える。当然、同様の視点で5年型をみると761者ということになる。

**【委員】** 年度を長くすればするほど、参加者は増えるのか。

**【委員長】** 増えるけれども、基準点上がる可能性がある。

【札幌市】 成績点を有することと参加できるかというのは、また別な話である。

【委員】 3年間に延ばすと、数は増えるけれども、恐らく基準点は上がるのか。

【札幌市】 平均点で言うと、5年型の方が1点ぐらい低い状況にある。年数を延ばした、短くしたことで平均点上がるか下がるかは、やってみないとわからない。

【委員長】 入札参加可能者数は、50%、35%、20%という割合でやるから、増える。個別の企業が「×」になったり「○」になったりするの、わからない。その年ごとの点数がわからないため。

【札幌市】 本市はくじ引きが多いので、取れるか取れないかは、企業の体制とは全く関係のないところで決まる。それを少しでも下げようとして、総合評価をしている。ところが、総合評価も、のべつ増やせるかといったら、また問題が出てくる。

【委員長】 今日の結論は、業界の状況や、弊害が読み切れないので、平成32年度以降、3年型に一本化するということまでの結論には至らないが、まずは試行して、来年度中にいろいろ意見を聞くということ、さらに、計算方法は、従来の方法を堅持してみること。それも、来年度の検討の中で、最高点を採用するなどいろいろなやり方はあるのかもしれない。

【札幌市】 平成31年度については、2年型を3年型にし、その結果や、業界の意見も聞いて、型式の一本化については改めて議論していただきたい。